

緊急フォーラム 概要

【テーマ】 エンテロウイルス D68 感染症：
多発する急性弛緩性麻痺と重症呼吸障害の原因か？

■日時：2015 年 10 月 31 日（土）8：15～8：55（40 分）

■会場：A 会場（ザ・セレクトン福島 3F 安達太良 I・II）

開催趣旨

エンテロウイルス D68 (EVD68) は、米国を中心に、呼吸器感染症や急性弛緩性麻痺の原因として報告されている。平成 27 年 9 月、国立病院機構呉医療センター小児科より、平成 26 年に EVD68 により急性呼吸不全と急性弛緩性麻痺を来した症例が日本小児科学会雑誌に報告された。平成 27 年 10 月、東京都立小児総合医療センターより、平成 27 年 9 月上旬に喘息様下気道症状を呈する患者が多発し、病原体検索がなされた 5 例中 4 例から EVD68 が検出されたことが IASR に報告された。これらの報告を受け、本年 9 月以降、全国各地より原因不明の急性弛緩性麻痺や重症下気道炎症状を呈する症例が多発しているとの情報が寄せられている。EVD68 との関連は未だ確認されていないが、EVD68 による急性弛緩性麻痺と喘息様下気道炎の多発の可能性が高い。そこで、EVD68 感染症の臨床像の情報提供を行うとともに、重症疾患における病原体診断(検体保存)の重要性を強調することを目的として、緊急フォーラム「エンテロウイルス D68 感染症:多発する急性弛緩性麻痺と重症呼吸障害の原因か？」を開催する。

■座長

細矢 光亮（福島県立医科大学 小児科）

■プログラム

講演 1 （発表 10 分）

清水 直樹 先生（東京都立小児総合医療センター 救命・集中治療部）

「EVD68 による重症下気道炎の臨床像」

講演 2 （発表 10 分）

米倉 圭二 先生（呉医療センター 小児科）

「EVD68 による急性弛緩性麻痺の臨床像～当科で経験した一例を踏まえて～」

講演 3 （発表 15 分）

多屋 馨子 先生（国立感染症研究所 感染症疫学センター）

「原因不明の重症疾患多発時の急性期検体確保の重要性
～急性弛緩性麻痺例の経験から～」

招待講演

10月31日(土) 14:00~15:00 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良Ⅰ・Ⅱ)

招待講演 1

座長 堤 裕幸(札幌医科大学医学部 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
IL1	Barney S. Graham	Senior Investigator Deputy Director, Vaccine Research Center Chief, Viral Pathogenesis Laboratory National Institute of Allergy and Infectious Diseases, NIH	RSV Vaccine Development : A Time For Hope

11月1日(日) 11:00~11:50 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良Ⅰ・Ⅱ)

招待講演 2

座長 中野 貴司(川崎医科大学 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
IL2	Eun Hwa Choi	Department of Pediatrics, Seoul National University College of Medicine, Seoul, Republic of Korea	Middle East Respiratory Syndrome Outbreak in Korea

特別講演

10月31日(土) 13:00~13:50 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

座長 細矢 光亮(福島県立医科大学 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
SL	山下 俊一	長崎大学/福島県立医科大学	原発事故と医療人；チェルノブイリと福島の経験から

会長講演

10月31日(土) 9:00~9:40 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

座長 鈴木 仁(公益財団法人福島県保健衛生協会、福島県立医科大学)

演題番号	演者	所属	演題
PL	細矢 光亮	福島県立医科大学 小児科	小児感染症を科学する

教育講演

10月31日(土) 17:30~18:20 B会場(ザ・セレクトン福島 3F 吾妻I・II)

教育講演 1

座長 橋本 浩一(福島県立医科大学医学部 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
EL1	西條 政幸	国立感染症研究所 ウイルス第一部	日本における節足動物媒介性ウイルス感染症の流行: デング熱、TBEとSFTSの流行状況、および、今後の対策

10月31日(土) 17:30~18:20 C会場(ザ・セレクトン福島 2F 信夫)

教育講演 2

座長 谷内江 昭宏(金沢大学医薬保健研究域医学系 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
EL2	笹原 洋二	東北大学大学院医学系研究科 小児病態学分野	原発性免疫不全症の分子病態から考察する細胞外寄生菌に対する感染防御機構

10月31日(土) 17:30~18:20 D会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 西)

教育講演 3

座長 藤枝 幹也(高知大学医学部 小児思春期医学講座)

演題番号	演者	所属	演題
EL3	森内 浩幸	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 小児科	母子感染: 起こらないようにするために、または起こってしまったら、どう管理しますか?

10月31日(土) 17:30~18:20 E会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 東)

教育講演 4

座長 楠原 浩一(産業医科大学医学部 小児科学教室)

演題番号	演者	所属	演題
EL4	宮入 烈	国立成育医療研究センター 生体防御系内科部感染症科	小児専門医療施設における感染症コンサルテーションの実際

11月1日(日) 8:00~8:50 B会場(ザ・セレクトン福島 3F 吾妻I・II)

教育講演 5

座長 布井 博幸(宮崎大学医学部 生殖発達医学講座小児科学分野)

演題番号	演者	所属	演題
EL5	森 雅亮	東京医科歯科大学医学部 薬害監視学講座	自己免疫疾患の治療 Up To Date~小児リウマチ性疾患 を中心に~

11月1日(日) 8:00~8:50 D会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 西)

教育講演 6

座長 佐藤 晶論(福島県立医科大学医学部 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
EL6	押谷 仁	東北大学大学院医学系研究 科	近い将来に新型インフルエンザのパンデミックは起 こりますか

11月1日(日) 8:00~8:50 E会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 東)

教育講演 7

座長 西 順一郎(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野)

演題番号	演者	所属	演題
EL7	神谷 元	国立感染症研究所 感染症 疫学センター	疫学からみた百日咳の現状と問題点、そしてこれからの 予防策

シンポジウム

10月31日(土) 15:10~17:10 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

シンポジウム 1

「小児感染免疫領域に必要な診療支援ネットワーク」

座長 森島 恒雄(岡山ろうさい病院)

原 寿郎(地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院)

演題番号	演者	所属	演題
S1-1	吉川 哲史	藤田保健衛生大学	ウイルス感染症領域の診療支援ネットワーク
S1-2	石和田 稔彦	千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野	細菌感染症領域
S1-3	今井 耕輔	東京医科歯科大学 茨城県小児・周産期地域医療学	PIDJ (Primary Immunodeficiency Database in Japan) ネットワーク
S1-4	西小森 隆太	京都大学大学院医学研究科 発達小児科学	自己炎症性疾患における診療支援ネットワーク
S1-5	森 雅亮	東京医科歯科大学医学部 薬害監視学講座	自己免疫疾患 (リウマチ・膠原病)

10月31日(土) 15:10~17:10 B会場(ザ・セレクトン福島 3F 吾妻I・II)

シンポジウム 2

「感染症関連ガイドライン：これまでとこれから」

座長 岩田 敏(慶應義塾大学医学部 感染症学教室)

有賀 正(北海道大学大学院医学研究科生殖・発達医学講座 小児科学分野)

演題番号	演者	所属	演題
S2-1	黒崎 知道	くろさきこどもクリニック	小児呼吸器感染症診療ガイドライン
S2-2	木村 宏	名古屋大学大学院医学系研究科 ウイルス学	ヘルペスウイルス感染症
S2-3	河島 尚志	東京医科大学医学部 小児科学分野	急性脳症ガイドライン—インフルエンザ脳症を中心として
S2-4	金兼 弘和	東京医科歯科大学医学部 発生発達病態学分野	免疫不全時の感染症
S2-5	金子 一成	関西医科大学 小児科	乳幼児の尿路感染症のガイドライン：これまでとこれから

11月1日(日) 9:00~10:50 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

シンポジウム3

『ワクチンギャップの解消』から『世界で最も進んだ予防接種』へ』

座長 岡田 賢司(福岡歯科大学総合医学講座 小児科学分野)

庵原 俊昭(国立病院機構三重病院)

演題番号	演者	所属	演題
S3-1	宮崎 千明	福岡市立心身障がい福祉センター 小児科	ワクチンギャップに至る歴史
S3-2	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所	近年のワクチンギャップの解消
S3-3	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター	感染症流行の変化、ワクチン有効性・安全性の評価
S3-4	中山 哲夫	北里生命科学研究所 ウイルス感染制御	過去の歴史に学ぶこれからのワクチン開発

11月1日(日) 14:40~16:30 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

シンポジウム4

『小児感染症医の未来を考える：ホームドクターとしての認定医、エキスパートとしての専門医』

座長 尾内 一信(川崎医科大学 小児科学)

堤 裕幸(札幌医科大学医学部 小児科)

演題番号	演者	所属	演題
S4-1	片寄 雅彦	菜のはなこどもクリニック	クリニック；開業医の立場から
S4-2	田島 剛	博慈会記念総合病院/帝京大学医学部	地域中核病院における小児感染症専門医の存在意義
S4-3	笠井 正志	長野県立こども病院 小児集中治療科・感染制御室	こども病院に感染症科は必要だ！と言い切るために
S4-4	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野	大学病院における小児感染症専門医の育成のための現状と課題

ICD 講習会

11月1日(日) 17:00~18:30 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

「小児医療に関わる感染対策」

座長 東 寛 (旭川医科大学 小児科)

大石 智洋 (川崎医科大学 小児科学講座)

演題番号	演者	所属	演 題
ICD-1	石和田 稔彦	千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野	医療系学生と医療従事者の感染対策
ICD-2	堀越 裕歩	東京都立小児総合医療センター 感染症科	小児入院患者の感染対策
ICD-3	満田 年宏	公立大学法人横浜市立大学 附属病院 感染制御部	今後起こり得る感染症への感染対策

ランチョンセミナー

10月31日(土) 12:00~12:50 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良Ⅰ・Ⅱ)

ランチョンセミナー 1

座長 富樫 武弘(北海道結核予防会複十字総合健診センター)

共催 ジャパンワクチン株式会社/第一三共株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS1	中山 哲夫	北里大学 北里生命科学研究所	ワクチンの接種方法を考える

10月31日(土) 12:00~12:50 B会場(ザ・セレクトン福島 3F 吾妻Ⅰ・Ⅱ)

ランチョンセミナー 2

座長 齋藤 昭彦(新潟大学大学院 歯学総合研究科 小児科学分野)

共催 アッヴィ合同会社

演題番号	演者	所属	演題
LS2	森 雅亮	東京医科歯科大学大学院 薬害監視学講座	免疫不全症およびダウン症候群におけるパリビズマブ使用の現状と今後の展望

10月31日(土) 12:00~12:50 C会場(ザ・セレクトン福島 2F 信夫)

ランチョンセミナー 3

座長 岩田 敏(慶應義塾大学医学部 感染症学教室)

共催 第一三共株式会社/サノフィ株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS3	中野 貴司	川崎医科大学 小児科学	感染症対策は国境を越えて～ポリオに対するワクチン戦略

10月31日(土) 12:00~12:50 D会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 西)

ランチョンセミナー 4

座長 森岡 一郎(神戸大学大学院医学研究科 小児科学分野)

共催 塩野義製薬株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS4	廣津 伸夫	廣津医院	インフルエンザウイルスの拡散抑制について—増殖の阻害と伝播の阻止—

10月31日(土) 12:00~12:50 E会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 東)

ランチョンセミナー 5

座長 尾内 一信(川崎医科大学 小児科学講座)

共催 Meiji Seika ファルマ株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS5	坂田 宏	旭川厚生病院 小児科	外来における小児肺炎の新たな治療戦略

10月31日(土) 12:00~12:50 F会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 孔雀)

ランチョンセミナー 6

座長 豊永 義清(東京慈恵会医科大学/社会医療法人埼玉心会病院)

共催 サーマフィッシャーサイエンティフィック株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS6	大石 智洋	川崎医科大学 小児科学講座	プロカルシトニンの小児感染症診療における有用性について

10月31日(土) 12:00~12:50 G会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 葵)

ランチョンセミナー 7

座長 西 順一郎(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 微生物学分野)

共催 ファイザー株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS7	石和田 稔彦	千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野	小児侵襲性細菌感染症—最新の疫学情報を読み解く—

10月31日(土) 12:00~12:50 H会場(コラッセふくしま 5F 研修室A・B)

ランチョンセミナー 8

座長 尾崎 隆男(愛知厚生連江南厚生病院 こども医療センター)

共催 デンカ生研株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS8	庵原 俊昭	独立行政法人国立病院機構 三重病院	ワクチン・感染症における抗体の役割と抗体価の読み方

10月31日(土) 12:00~12:50 |会場(コラッセふくしま 5F 小研修室)

ランチョンセミナー 9

座長 堤 裕幸(札幌医科大学医学部 小児科学講座)

共催 田辺三菱製薬株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS9	多屋 馨子	国立感染症研究所 感染症疫学センター	定期接種化による水痘ワクチンの効果と今後のテーマ

11月1日(日) 12:10~13:00 A会場(ザ・セレクトン福島 3F 安達太良I・II)

ランチョンセミナー 10

座長 尾崎 隆男(江南厚生病院 こども医療センター)

共催 MSD 株式会社

演題番号	演者	所属	演題
大切な子どもを守るために			
LS10-1	森 雅亮	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 薬害監視学講座	ロタウイルスワクチン—接種の意義と実際—
LS10-2	四柳 宏	東京大学大学院医学系研究科 生体防御感染症学	B型肝炎から子供たちを守るために—定期接種導入後に残される課題—

11月1日(日) 12:10~13:00 B会場(ザ・セレクトン福島 3F 吾妻I・II)

ランチョンセミナー 11

座長 岩田 敏(慶應義塾大学医学部 感染症学教室)

共催 ジャパンワクチン株式会社/第一三共株式会社

演題番号	演者	所属	演題
肺炎球菌感染症 up to date			
LS11-1	諸角 美由紀	慶應義塾大学医学部 感染症学教室	—結合型ワクチン導入効果とそれに伴う菌側の変化—
LS11-2	新庄 正宜	慶應義塾大学医学部 小児科学教室	—臨床現場からみる、小児肺炎球菌感染症—

11月1日(日) 12:10~13:00 C会場(ザ・セレクトン福島 2F 信夫)

ランチョンセミナー 12

座長 木村 宏(名古屋大学大学院医学系研究科 ウイルス学)

共催 武田薬品工業株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS12	齊藤 達哉	徳島大学疾患酵素学研究センター シグナル伝達と糖尿病研究部門	感染防御における自然免疫の役割

11月1日(日) 12:10~13:00 D会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 西)

ランチョンセミナー 13

座長 庵原 俊昭(独立行政法人国立病院機構 三重病院)

共催 第一三共株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS13	中野 貴司	川崎医科大学 小児科学	インフルエンザ～治療と予防の営み

11月1日(日) 12:10~13:00 E会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 瑞光 東)

ランチョンセミナー 14

座長 砂川 慶介(北里大学感染制御研究機構)

共催 大正富山医薬品株式会社/富山化学工業株式会社

演題番号	演者	所属	演題
小児呼吸器感染症の日常診療のポイント～開業医の立場から、病院の立場から～			
LS14-1	黒木 春郎	医療法人社団嗣業の会外房 こどもクリニック	開業医の立場から
LS14-2	石和田 稔彦	千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野	病院の立場から

11月1日(日) 12:10~13:00 F会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 孔雀)

ランチョンセミナー 15

座長 堤 裕幸(札幌医科大学医学部 小児科学講座)

共催 旭化成ファーマ株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS15	尾内 一信	川崎医科大学 小児科学講座	小児呼吸器感染症ガイドラインに基づく診断と治療—迅速診断の将来展望—

11月1日(日) 12:10~13:00 G会場(ホテル福島グリーンパレス 2F 葵)

ランチョンセミナー 16

座長 石黒 信久(北海道大学病院 感染制御部)

共催 中外製薬株式会社

演題番号	演者	所属	演題
LS16	菅谷 憲夫	神奈川県警友会けいゆう病院 小児科	インフルエンザ対策の問題点—ワクチン、診断、治療—

11月1日(日) 12:10~13:00 H会場(コラッセふくしま 5F 研修室A・B)

ランチョンセミナー 17

座長 岡田 賢司(福岡歯科大学総合医学講座 小児科学分野)

共催 アステラス製薬株式会社/一般財団法人化学及血清療法研究所

演題番号	演者	所属	演題
LS17	齋藤 昭彦	新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野	小児の予防接種の最近のトピックス

11月1日(日) 12:10~13:00 I会場(コラッセふくしま 5F 小研修室)

ランチョンセミナー 18

座長 河島 尚志(東京医科大学 小児科学分野)

共催 一般社団法人 日本血液製剤機構

演題番号	演者	所属	演題
LS18	今井 耕輔	東京医科歯科大学 茨城県小児・周産期地域医療学	IgG サブクラス欠損を呈する原発性免疫不全症の診断と治療